

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100253		
法人名	財団法人 弘潤会		
事業所名	グループホームほのぼの天満		
所在地	宮崎市谷川3丁目1番2号		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100253&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成22年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天神山公園の下に位置し、窓からは天神山公園の木々が見え、春には桜が舞い秋には枯葉が舞い、木々の変化に季節の移り変わりを感じます。また大淀川が展望でき、夏には2階から花火が正面に見え毎年の楽しみになっています。活動は「くもん」学習療法やリハビリ体操により、身体機能の維持増進を図っています。その他、個人の趣味等に合せた編み物や塗り絵なども提供しています。外出に関しては、福祉バスを利用してのご家族参加型の外出、天神山での花見、散歩などを行っています。地域交流としては、自治会へ加入し、自治会の催しや一斉清掃、地区のこにこサロンへの参加、保育園との交流、中学生の職場体験等、地域の方々との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、一人ひとりの思いや暮らし方の意向を掴み、思い出の場所や、コーヒーを飲み喫茶店に出かけたり、花見、ドライブなど、必要時は家族と連携を取りながら、利用者本位の支援に積極的に取り組んでいる。また、地区の住民として公民館活動の清掃やこにこサロンに職員と一緒に参加したり、隣接の保育園児との交流もあり、利用者の楽しみのひとつにもなっている。管理者は年間教育計画を立てて職員の外部研修や、事業所内の勉強会を通して職員の定着を図るとともに、質向上に取り組んでいる。さらに、重度化や終末期もかかりつけ医や訪問看護師と連携し、利用者及び家族の意向に添った支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、事業所独自の理念を職員全員で話し合い、自分たちの言葉で表現した理念を作り掲示している。	職員全員で理念の見直しを行い『利用者一人ひとりを尊敬し、その人のペースで、安全に安心して』など、利用者や家族にも分かりやすい言葉で表現し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の児童・民生委員が主となり開催されているにこにこサロンに利用者に参加し、依頼あれば体操やゲームの指導も行っている。また、自治会の催しには職員の家族も一緒に参加している。	地区の老人会への参加や、近隣の住民、保育園の子供たちとの交流、ボランティアの受け入れなど積極的に地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の児童・民生委員が主となり開催されているにこにこサロンに参加し、認知症についての口話や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表、包括支援センター、ご家族が参加して2ヶ月に1回開催している。会議では運営の状況報告や職員研修の報告などを行い、話し合いで出てきた意見を取り入れるようにしている。	地域の代表、包括支援センター職員、利用者の家族がメンバーとなり定期的に開催している。そこでの意見をサービスの質向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行っているケアマネジメントなどの研修を受け、職員会議で報告し、事業所の質の向上を図っている。市主催の認知症チームケアに取り組み、ケアのあり方、施設サービス計画書の作り方を学んでいる。	市が主催する研修会に積極的に参加して連携を図っている。また、ケアマネジメントやセンター方式などのグループ指導も積極的に受講しケアサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、職員会議で報告すると共に、文書にて職員回覧で理解を深めている。	職員は身体拘束の研修を受講し職員全員で勉強会を行い、身体拘束の弊害を理解し拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止関連法についての内容があれば、職員会議で報告し資料を回覧し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修でについての内容があれば、職員会議で報告し資料を回覧し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要説明書により、入居時にご家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でも意見交換を行っているが、元介護相談員に運営推進会議・家族会に参加していただき、利用者や家族の声を拾ってもらいアドバイスを受け、運営に活かすようにしている。	第三者に運営推進会議や家族会に参加していただき利用者や家族の率直な意見を聞けるように工夫し、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見や提案を聞いており、反映に努めている。	職員会議の中で出された意見や、提案について運営に反映させ、サービスの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い努力や実績を把握し、給与に反映できるようにしている。また、研究発表の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じた研修を受けている。 免許取得についても勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やブロック別研修会に参加し、他事業所との交流を図り、お互いに情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には可能な限り本人を含めた施設見学・説明を行っている。アセスメントにはセンター方式を取り入れ、本人の思いを知るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の説明は丁寧に行い、質問や不安に思われていることを一つ一つ説明し安心していただくようにしている。入居時には細かく日々の様子を電話で報告する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で必要と思われる要望があれば、アセスメントをとり、施設サービス計画書に反映する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗いなどを手伝っていただき、お礼の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事の時に一緒に行っていただき、本人と一緒に楽しんでいただく機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も支障なければ、入所前のかかりつけ医を受診している。	家族の協力を得ながら利用者がこれまで大切にしてきた親戚や近所の方に面会に来ていただいたり、行きつけの美容室や思い出のある場所に出かけるなど関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂兼談話室にて、4人がけのテーブルにて話しやすい環境を作っており、利用者同士よく話をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設から入院退居された方への面会及び主治医と病院ワーカーとの関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を取り入れたアセスメント様式を使っている。聞き取りが難しい方に対してはご家族の協力にて本人の思いや希望などの把握に努めています。	家族の協力を得ながら一人ひとりの思いや、暮らし方の希望や意向を把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、職員が家族と本人に聞き取りをすると共に家族に確認と記入をお願いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの様式としてセンター方式の他、N式を取り入れ、心身の状態有する力の把握に努めている。また、介護記録からも情報を集めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・担当職員・計画作成者にてサービス担当者会議を行い、施設サービス計画書を作成している。	本人、家族、関係職員で話し合い利用者本意の介護計画を3か月に1回作成し、モニタリングは、毎月1回行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の計画書は介護記録のファイルと一緒に閉じてあり、職員は実践・結果、気づきを記入し、情報は共有できている。介護計画については必要あれば随時変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況、本人の負担等を考慮し、病院受診、往診、訪問看護、訪問歯科の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の児童・民生委員が主となり開催されているにこにこサロンに利用者と参加している。 在宅にいた時のかかりつけ医のままで対応してる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に伴いかかりつけ医を変更することはなく、本人・家族の意向を伺いながら対応している。 家族での病院受診の際には施設での状態を記録し、かかりつけ医と連携を図っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるように支援している。適切な医療を受けられるように、暮らしぶりについてかかりつけ医に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週に1回訪問し、個々の状態把握、健康・衛生等の指導・助言や職員からの相談支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は発生状況、日常生活の情報を提供し、入院中は状況の把握に努めている。 また、情報交換を行いながら、退院後の本人への支援を家族を交えて話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する考え方、本人及び家族の話し合いや意思表示の方法など看取りに関する方針・同意書があり、入居契約を結ぶ時に説明している。地域のかかりつけ医に必要時に依頼している。	利用開始の段階から重度化やターミナル時のケアの方針について家族と話し合い確認書を取り交わしている。かかりつけ医の往診や、訪問看護師と連携し積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	急変時のマニュアルに従い、実地練習し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを元に避難誘導訓練を行っている。隣の保育園、ホーム上の住宅に依頼をし、協力得られている。	マニュアルを作成し、近隣住民や、保育園職員の協力を依頼し年2回防災訓練を実施している。消防署直通の火災報知器も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉遣い、声かけの仕方、表情、態度を注意し会える関係を作っており、その都度注意すると共に、職員会議でも話している。	職員は会議の中や、勉強会でプライバシーの確保について話し合い、プライバシーを配慮したやさしい言葉掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに対して、その方が分かる方法を探ると共に、表情などからも意思を汲み取る等している。意向を伺い拒否あれば時間をあけたり、対応職員を代えたりしながら、その方のペースに合わせて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその日の気分に合わせて学習療法や入浴などの日課を変更して対応できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことができる方はその都度選んでいただき、選ぶことが困難な方には家族に色などの好みを伺いながら提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、それぞれの能力に応じて、えんどう豆や芋の皮を剥いたりしている。また、おやつや団子や誕生日会のケーキ作りを一緒に行っている。	職員は利用者の出来る力を活かしながら食事の準備や片づけを一緒にし、同じテーブルで楽しい雰囲気ですべて食事をしている。また、団子や誕生会のケーキ作りなども職員と一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士は配置されていないが、体重測定や検査の結果から訪問看護の看護師やかかりつけ医に助言指導をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。夜間は技師を預かり洗浄剤に浸している。月に1～2回歯科衛生士による訪問指導、同じく月に1～2回は歯科医の往診があり、必要時には歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し各々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。定時誘導のほかに訴えや動作や表情から読み取り、随時誘導している。	利用者個々の排泄パターンを記録している。利用者の動作や表情を読み取り、トイレ誘導を行い、全員トイレでの排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動はもちろんのこと食事に食物繊維を多く取り入れると共に昼食に毎日ヨーグルトをつけるなど乳製品も使用している。排便チェック表をつけ排便のパターンを把握し、どうしても出ない方は主治医の指示のもと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯は決めてあるが、その方の体調や希望によって流動的に対応している。	利用者本意に一人ひとりに合った入浴が出来るように支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者の報告より夜間寝ていない方に対して、日中眠気あれば布団を用意し休んでいただいている。その他、自宅で昼寝の習慣がある方で希望あれば布団に横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は鍵のある部屋で管理し、主治医の指示の下管理している。職員はいつでも薬の説明書を見ることが出来、薬が変更になった時には随時申し送りをしている。症状の変化については随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式より生活歴や嗜好を把握し、洗濯物たたみや布地切り、新聞折などの役割を持っていただくと共に趣味や気分転換に編み物やパズル、塗り絵やマッサージなども提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人やご家族から希望があれば随時出かけている。その他、担当職員と共に喫茶店やドライブにでかけたり、家族に依頼するなどして実施している。年に数回は家族参加型の外出を行い参加協力得られている。	花見や宮崎神宮、公園、喫茶店、買い物など利用者の希望に沿って外出支援を行っている。遠出のドライブなどは家族の協力を得ながら出かけている。	「あなたの夢かなえます」プロジェクトで個人ごとの外出支援の充実を図る計画があり、今後の取り組みにさらに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	施設がお小遣いとして預かり、本人に伝えている。外出時や月2回のパンの訪問販売時には好きなものを選んでいただけるようにしている。使用後はお小遣い帳に記載し、定期的に家族に確認していただきサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけていただく用意が出来る。手紙やはがきは本人にお渡しすると共に難しい方には代読している。家族にも報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は日差しが強ければ、よしずをかける等直射日光が当たらないようにし、暖房、冷房は時間管理ではなく、その時の状況で管理し、快適な空調を保つようにしている。また、利用者の好きな音楽をかけたり、季節の花々を飾っている。	共有のリビングは日当たりや風通しも良く直射日光が当たらないようにブラインドが使用されている。畳のコーナーやテレビも置かれている。要所に観葉植物や季節の花が飾られ、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ディルーム、畳の部分で自由にくつろげるようにしている。また、気の合う方同士を同じテーブルにするなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族に持込についての説明をし、日頃使い慣れている物を使用していた。なお、転倒や異食のある方に対しては、家族了解の上で職員詰め所にて預かり対応している。	利用者の使い慣れた馴染みの家具や調度品、家族の写真などが持ち込まれている。また、床は畳敷きのスペースもあり利用者に馴染みやすい、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレの入り口に大きく表示したり、部屋を探される方に対しては、家族に了解を得て居室入り口に掲示させていただいている。		